

令和4年度 第1回市川市食育推進関係機関連絡会（詳細）

- 1 開催日時：令和4年7月14日（木）午後3時～4時50分
- 2 場 所：市川市保健センター4階大会議室
- 3 出席者：代表

大野氏（市川市医師会）
河内氏（市川市歯科医師会）
富田氏（市川市PTA連絡協議会）
山崎氏（市川市私立幼稚園協会）
松丸氏（市川市食生活改善推進協議会）
澤田氏（市川市漁業協同組合）
菅谷氏（千葉伝統郷土料理研究会）
中村氏（市川商工会議所）
相原氏（市川市消費者モニター友の会）
浮谷氏（NPO 法人日本食育ランドスケープ協会）
高橋氏（和洋女子大学）
染谷氏（生産者代表）

（事務局）保健部：二宮部長

保健センター健康支援課：高橋課長、中川主幹、永田副主幹、
平林副主幹、村上副主幹、池田副主幹、大杉技師

（関係課）農業振興課：星主幹、宮下主事

臨海整備課：相川主幹、戸川主査

保健体育課：荻原主幹、沖田副主幹、

こども施設運営課：橋本主幹、金子副主幹

生活環境整備課：高橋主幹

4 内容

報告 令和4年度食育の推進について

報告 代表者及び関係機関等の取組紹介

議題 第4次市川市食育推進計画の策定について

その他

【午後3時開会】

健康支援課長：皆様こんにちは。本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまより令和4年度 第1回市川市食育推進関係機関連絡会を開会いたします。

本日、傍聴希望の方はいらっしゃいませんので、議事に入りたいと思います。それでは、報告といたしまして、令和4年度食育推進について事務局からお願いいたします。

報告 令和4年度食育の推進について

事務局：令和4年度食育推進について、事務局からご報告させていただきます。

資料の報告 - 1 をご覧になりながらお聞きください。

令和4年度食育推進計画、食育の推進の説明の前に、令和3年度食育の推進報告をさせていただきます。

特に、関係機関の連携した取り組みとして、作成いたしました3本の食育動画につきまして、ご協力いただきありがとうございました。

お待ちいただく時間に流させていただきました。

今回資料として皆様にも黄色いプリントでご紹介させていただいておりますので、そちらも併せてご覧になってください。

続きまして、令和4年度食育の推進につきまして、ご報告いたします。

令和4年度会議の予定、取り組み等につきましては、資料をご覧ください。

この中から、事務局より2点ご報告いたします。

1点目は、6月15日から6月28日、生涯学習センター1階水の広場前にて行いました、食育展示です。この展示には関係機関連絡会より、私立幼稚園協会、市川商工会議所、NPO法人日本ランドスケープ協会、市川市食生活改善推進協議会の4団体からも、パネルの展示のご協力いただきました。どうもありがとうございました。

当日の様子については、皆様の資料の中に写真が入ったものをご用意させていただいておりますので、こちらをご覧くださいと思います。

関係課からの報告に移ります。

資料に紹介してありますことに追加とさせていただきたいと思います。

健康支援課は、ライフステージに沿った食育の推進ということで、離乳食教室を始め、各年代に沿った栄養教育を進めております。

以上になります。

農業振興課：農業振興課では書類に記載されている通りですが、市川の梨フェアについては、6月3日の降雹による被害を受けた梨をメインに販売させていただこうと考えております。

以上でございます。

臨海整備課：臨海整備課では魚食文化フォーラムという組織を設立しまして食育に絡めて魚食のアピールを行っております。追加のお話といたしましては最初の市内鮮魚店での水産物販売、スズキの方を6月24日に販売させていただきました。また、ノリのシーズンに生ノリの販売を考えております。記載されているもの以外については市内でイベント、9月に行う市川産フェスタなどで出展予定になっております。こちらでも市川市漁業協同組合と一緒に水産物のPR活動をやりたいと考えております。

よろしくお願ひいたします。

こども施設運営課：保育園の方では各園の食育計画に基づいた取組で主に野菜の栽培等を行っております。また今年度は噛むメニューをテーマとしたレシピ動画を作成し少しずつYoutubeにアップしているところであります。以上です。

保健体育課：各学校では地場産物の活用を給食でしています。9月から市川市の梨、1月くらいからはノリの使用をしていきたいと思っています。以上です。

生活環境整備課：私どもの課では食品ロス削減の取組を行っておりまして、6月5日にニッケコルトンプラザで行いました市川環境フェアでフードドライブを行いました。各小学校やから出前講座の要望がありましたら、食品ロスとゴミの削減の出張講座を行っております。以上になります。

健康支援課長：ありがとうございました。各課から取組状況をご報告させていただきました。昨年度食育の動画を作成いたしました。皆様からご協力いただきまして素敵な三部作ができました。中でも幼稚園協会の山崎様から2組の親子をご紹介いただきましたので、山崎様からご感想などをいただければと思います。よろしくお願ひいたします。

山崎さん：市川市私立幼稚園協会副会長の山崎と申します。

私どもの園の方から2組の方に協力していただいて、市川の野菜をテーマにですね、収穫するところから調理をするところまでしていただいてその動画を作っていただきました。

保護者の方からですね、市川でこんな野菜って作られてるんだとか、ケールなどは知っているけど食べたことがないとか、子供も大人も、そういう意見が出まして、本当はあんなに緑だし苦いんじゃないの？と最初は思っていたらしいんですけど、食べたらすごくさっぱりしていて味が良かったと大変好評でした。子どもたちも自分たちで野菜を採るところからスタートできて、調理までできるということで終始ワクワクして楽しかったと報告を受けております。以上です。

健康支援課長：ありがとうございます。皆様是非ともですね、まわりの方にまだ見ていないような方がいらっしゃいましたら動画を見ていただくようPRをしていただければと思います。素敵な作品ですのでみんなに見ていただければと思います。よろしくお願ひいたします。

報告 代表者及び関係機関の取組紹介

健康支援課長：では次に活動の紹介ということで、代表の皆様からご説明いただきたいと思います。お1人様3分程度でお願いいたします。

大野代表：市川市医師会から伺いました大野と申します。

例年ですと、子供の肥満などすこやか健診を通してのお話しをしていますが、コロナで2年間個別に問診をしたりなどがほとんどできない状況になっておりまして、食育は医師会としてはストップしております。ただ、学校医を通じて会員の医師から上がってくる声としては、みんなやはり成長しているんですね、お子さんたちが。ご家族も成長してるし、子供たちも成長している。もっと平たい言葉でいうと丸く太っているという状態にあります。

どうしても手軽に食べられて満足できてということになりますと、でんぷん質のお菓子が多くなる。太っている子はマスクをした状態で外で走り回るのが難しいので、運動不足による、体重

は変わらなくても体力が落ちているということもある。このコロナというのはたぶん、何年か経った後、子供の健康状態、体力という形で出てくるのではないかと考えております。またこれは大人や歳を重ねられたかたも一緒に、ロコモティブシンドロームいわゆる動きが悪くなる、そして適切な栄養が摂れてないために、たんぱく質の補充が行われないことによる筋力の低下が懸念される。医師会としても持っている枠の中で、啓蒙番組を作って流すのをやっています。これからもそういったところを中心に食育という形で医師会としては、医師として関わっていくということでございます。以上です。

河内代表：市川市歯科医師会の河内と申します。

市川市の歯科医師会では、食育に関してはヘルシースクールすこやか口腔健診を通して、関与できればというふうに考えております。

昨年度まで、コロナの影響でなかなか学校におけるヘルシースクールの実施もままならず、昨年度、形を変えて工夫をしてやったところ、健診の後の事後指導をZoomの形で、各学校に同時配信をすることといたしました。

その中で試みとして味覚検査に関連して、子供たちに対して、味覚の成り立ちから、基本の味、五つの基本の味について、簡単なお話を40分程度いたしました。なかなかできる機会はないですが、今年もすこやか口腔健診を通して、食育に寄与できればというふうに考えております。以上です。

富田代表：市川市PTA連絡協議会の富田と申します。よろしくお願ひいたします。

PTAといたしましては、まず子供たちの朝ごはんを推奨しております。前から言われております「早寝早起き朝ごはん」という言葉がありますが、いろいろ啓蒙しています。やっぱりいろんな家庭があり、ネグレクトの家庭もあるわけで、毎日給食だけで成長しているような子供たちもいるので、そういうことがないように周りからもいろんな目で見ようと今いろんな話をしております。朝ごはんを食べていかないとどうしても給食まで持たないこともあります。市の方にもちょっと相談をしたことがあります。夕ご飯は子ども食堂さんが結構頑張ってくれてはいますが、朝ごはんは、なかなかやっぱり食べる場所がないですね。市長さんにも連絡をしているが、早く学校に来てなにかちょっと食べられたらいいねということで声掛けいただいているみたいです。なんとか1日3食子供たちが食べてほしいなと考えております。

山崎代表：私立幼稚園協会の山崎です。

幼稚園協会として一体として動いた活動というのは、この1年ありませんが各園工夫を凝らして活動しております。

なかなかこうコロナが収まらないということで、向き合っただけの調理活動がなかなかまだできていないですが、今年は復活しようと7月に当園でも、夏野菜を使った自分達で作ったピザを作ろうとしましたが、またコロナが流行ってきてしまい、そちらは9月に延期。食べる以外にも、幼稚園としてできることはないかといろいろ考えまして、夏野菜収穫した後のスケッチを試みたり、そこで色の違い、ピーマンが全部緑かと思ったら、ちょっと黄色っぽいところがあるとか、そういったことに気づきがあったりとか、また野菜スタンプなどを作って、ピーマンの輪切り、ナスの輪切りなどでアートを作ってみたり、それ以外にも、色水、野菜の皮を使って、ピーマン、ナス、山桃、ブルーベリー、にんじん、また朝顔などを使って、色水を作って、それを合わせて、他の色を作ってみたり、そういった活動しております。

野菜などは、先生の年代でも食べたことがないという方もいるぐらい、インゲンなんですけど、そういった先生もいました。

幼稚園ではなるべく、旬な野菜自分たちで作った旬の野菜、採れたての野菜を調理し、すぐに提供する、そういうことによって、子供たちは自然と食べるようになって、そしておいしいと思う

ようになる。

そういった活動を今後も増やしていければなと考えております。以上です。

松丸代表：市川市食生活改善推進協議会の松丸でございます。よろしくお願いたします。

私たち食生活改善推進員協議会は、市民の皆様にご食生活の大切さや健康への意識を高めていただくよう、市川市から今年度は、推進員として58名委嘱されました。市川市を11地区に分け、食生活による健康づくり活動を推進しております。主な活動は2つございます。

活動の1つはおとなの食育講習会です。テーマを決めるにあたり、市民の食育アンケート調査や第3次計画中間評価の目標値、未達の項目等を参考にテーマを決めております。

今回は、栄養バランスの取れた食事をしている市民が少ないという結果を踏まえ、

こちらチラシがありますが、「おいしく手軽にバランスアップ、栄養ばっちりおうちごはん」と題し、保健センター、南行徳保健センターで6月16日、22日、19日、3日間計6回実施いたしました。

内容は講話と調理のデモンストレーションです。講話はわかりやすくポイントを4つに絞りました。

①はバランスのよい食事とは。②は時短調理のポイント。③は市販品の組み合わせ方。④は時短調理で主食、主菜、副菜をそろえた献立例を紹介。実際に調理のデモンストレーションを行いました。参加人数は48名となりました。参加者からは、とても簡単なのでぜひ男性に覚えてほしいとか私も作ってみたいということで大変好評でした。また、10月から11月にかけて同じテーマで地域の6公民館で開催予定でございます。

活動の2つ目は、小学生向けの放課後保育クラブの健康教育です。こちらは小学1年生から3年生を対象にしています。夏休みを利用して今年は市内5校の小学校へ出向き朝ごはんや生活リズムの大切さ、栄養の働きを知って好き嫌いをなく食べることの啓発を予定しております。

10月以降は市川市民まつりや民生委員地区協議会での食育啓発を予定しております。

まだまだ活動に制限がありますが推進員全員で食生活による健康づくり活動を進めてまいりたいと思っております。以上です。

澤田代表：市川市漁協澤田です。

今年は皆さん熊本県のアサリの産地偽装が話題になりましたよね。

これも地場産のアサリがないからで、こちらの市川市の三番瀬海域もアサリの生産はありません。

今日は近年の東京湾漁業の現状について、ちょっとお話してみたいと思います。

私がこの食育の委員になった頃には、アサリの漁がありました。しかしながら、近年全国的に減少してきているとお話した記憶があります。現状はアサリの漁はここ数年、当組合ではありません。

稚貝の発生は少し確認でき場所によっては、多少の生育も見られますが、漁にはなりません。17～18年前から確認され、大量発生したホンビノス貝も、徐々に減少傾向にあります。

詳しい原因はわかりませんが、温暖化、下水道の完備による海の栄養源の減少、毎年出る青潮、ほかにもあると思います。ノリ養殖も近年クロダイによる食害で生産に影響が出ています。漁船漁業もコロナによる魚価の低迷、燃料の値上がりで漁業は低迷するばかりの現状です。悪い話ばかりでしたが、市川市漁協では、15年ほど前から、江戸前ハマグリ復活に向け取り組んでいます。最初の頃は多少の生育が見られましたが、なかなか生産には結びつきませんでした。昨年は、年間約5トンほどの生産がありました。

しかし、昨年の秋の青潮で、7.8割に被害が出てしまいました。それでも残った資源で、今年も漁が続いています。

ハマグリについては生産に向け、ハマグリ之母貝放流も行っています。

アサリにしても、産卵し生産に結びつくにはある程度の数が、絶対数が必要だと思います。

今年は少しですがアサリの稚貝が育ち始めています。このまま順調に育つのを期待しています。

季節も夏本番となりました。漁業は外仕事ですので、厳しい季節となりました。

組合員の皆さんには、熱中症対策と、高齢者社会、男の健康寿命ぎりぎりのメンバーですので、塩分の取り過ぎに注意するよう、話し合うようにしています。以上です。

菅谷代表：千葉伝統料理研究会菅谷です。よろしくお願いたします。

昨年度も毎年行っていた太巻きまつり寿司のデザインコンテストや市民団体依頼の講座は新型コロナウイルスのためできませんでした。今年度は依頼講座、太巻き祭り寿司親子教室など依頼があれば今の実情に合った実施のやり方等を考えながら行っていきたくと思っています。毎年行っていた、太巻きまつり寿司デザインコンテストは今年度は中止ですが、来年度から再開の予定です。今回の市川支部のメンバーは学校栄養士がメインとなっています。市川よみうりのおいしく食べようのコラムで、今年度は不足しがちな栄養を補おうについて月2回掲載しています。機会がありましたらご覧ください。以上になります。

中村代表：市川商工会議所中村でございます。よろしくお願いたします。

商工会議所では、地産地消事業の「市川の梨の食べ歩きマップ」「市川のトマト絶品メニュー」は、規格外の梨やトマトを使用し地産地消のみならず、フードロス考えた事業を行っております。

本年度も一応このまま事業を進める予定ではおりますが、雹被害がございまして、梨がどういった形でこちらの方に来るのかというのは、これから農協さんと話し合いながら進めていく事業でございます。

また、市川市内のロータリークラブの一つが、市川市内の小学校に在籍する児童を対象に募集し、1チーム4人での朝食づくりチーム戦というのをやっております。

こちらは第13回になり、市川市小学生朝食選手権というのが行われております。

市川の商工会議所も次世代を担う子供たちの成長と健康に賛同いたしまして、協賛をしております。

そしてあと2年間開催できなかった産フェスタは人数を制限しながら、やり方を変えながら、今の時点では、9月3日に開催する予定でございます。

子供たちもたくさん来ますので、市内の産業から食を感じてもらえたらいいなという感じで、みんな頑張っております。以上でございます。

相原代表：市川市消費者モニター友の会でございます。

このところずっと同じ話をしなければいけなく辛いのですが、私どもの主催の行事が全くできていない状態です。

人を集めるというのが、自分たちもまず作ることができない、講座とかを考えることができないということと、人を呼ぶという呼びかけができないので辛い思いをしておりますが、先ほどもありましたYoutubeなどはとても楽しく拝見させていただいております。

会員とも今はそういう情報取得の方を一生懸命やっておりますのでまたそれを活かしていきたいと思っております。ありがとうございます。

浮谷代表：日本食育ランドスケープ協会浮谷ですよろしくお願いたします。

私どもの活動も縮小された形での活動ということが状況です。

小学校での食育授業ということでお話させていただくと、もう半年ほど前の1月に富貴島小学校での活動がありました。対象は4・5年生でしたが、当初コロナが少し落ち着いた頃に普通に授業はできるのかなと思いましたが、急遽また増えてしまった状況で、我々としては初めてでしたがZoomで授業をさせていただきました。

ただやはりZoomなので、資料は子供達に見せられましたが、姿が、ちょっとお互い見られないということで、先生も、我々講師という部分でも、ちょっと寂しい思いをしたというのが当時の状

況でした。

あともう一つ、最近では先月、6月の下旬ですけども、二俣小学校で授業をさせてもらいました。対象は4年生で、二俣小学校から3年ほど続けて依頼をしていただいております。

子供たちが、自分自身で野菜という文字をもじってY S Iプロジェクトという形で活動しているようで、野菜について勉強しているので、その知識をもう少し広げさせて欲しいということで依頼を受けました。この小学校自体が4年生を対象として野菜とか食に関する内容で、テーマも持たせているという、ある意味すばらしい活動をしています。

私たちとしてはそういったサポートという形で普段見慣れない野菜を持ち込んだ形で対応させていただきました。

今後ということでは、船橋の方での活動になりますが、2年ほど中止になり、今年本当にまたできるのか、11月の話ですが、ちょっと心配している状況です。何とか開催できればと思っております。以上です。

高橋代表：和洋女子大学の健康栄養学科の高橋と申します。よろしくお願いいいたします。

前任の古畑先生に変わりました今年度から加えさせていただきました。

専門が公衆栄養学で、大学2年生と3年生を対象に教えております。

今、和洋女子大学で毎年100人近くの管理栄養士を養成しており、市川市の各所で学生活動や、学生の実習で大変お世話になっております。

公衆栄養学の授業では、国や地域における健康づくりの政策や法律、またその活動などについて話を、計画から実施評価まで学生に教えております。

また、健康栄養学科以外でも保育士、幼稚園教諭を養成しているこども発達学科でも「子供の食と栄養」という授業を持っております。80人くらい毎年受講しております。栄養に関する基礎的な話や、旬の食材、行事食、伝統料理などについて自分で調べてまとめてもらったり、それに関する教材を作ってもらったりという授業をしています。

主食・主菜・副菜がそろった食事というのも、その必要性をなかなか理解できていない学生もいるので、朝食も食べましょうとか、主食・主菜・副菜のそろった食事をとりましょうという話も積極的にしております。

私自身は、令和元年に千葉県保育協議会の方と一緒に千葉県内の保育所を対象にして食育に関する調査を行いました。報告書の方にまとめさせていただいていますが、こちらの会で何かお役に立てればいいなと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいいたします。

染谷代表：こんにちは生産者の染谷です。

私は野菜を作っています。最近若い人たちが野菜農家を始めてくださっていて、今回も市川の野菜ということで、動画作っていただきました。今まである野菜、例えばネギ、あとトマトとか、大型の野菜だけではなく、新しい野菜に取り組む若い方が始めております。

ということで今回動画を作っていただき、これから市川の野菜のバラエティーが増えてくるのではないかと期待していますし、もしそういう変わった野菜を見たら1回試してみただけると嬉しいと思います。

以上です。

健康支援課長：ありがとうございました。

ただいま皆様から貴重なお話をいただきました。

何かご質問等ございましたら挙手いただければと思いますが、よろしいですかね。

そうしましたら本日の議題ということで進めさせていただきます。

第4次食育推進計画の策定について事務局よりご説明させていただきます。

議題 第4次市川市食育推進計画の策定について

事務局：第4次食育推進計画の策定について、ご説明させていただきます。

現在、市川市では、平成30年に策定いたしました第3次市川市食育推進計画に沿って、食育を推進しており、今年度が最終年度となります。

国の第4次食育推進基本計画は令和3年3月に、千葉県第4次計画は令和4年3月に策定されました。

参考資料の6をご覧ください。千葉県の第4次食育推進計画から引用した資料となりますが、国の第4次計画では、基本方針を3つの重点事項とし、

「これらをSDGsの観点から相互に連携して総合的に推進していく」とされています。

裏面の千葉県の第4次計画では、基本目標を「ちばの恵みを取り入れたバランスのよい食生活の実践による生涯健康で心豊かな人づくり」とし、右側の3つが施策の方向性となっております。

本市では、国、県のそれぞれの計画を参考にし、第3次市川市食育推進計画期間の成果や課題を踏まえ、第4次計画に反映してまいります。市川市の第4次計画の施策の展開は、後ほどご説明いたします。

続きまして、食育に関するアンケート結果から、第3次市川市食育推進計画の達成状況と、市川市の現状等を踏まえた第4次計画へ向けての指標項目、目標値の方向性についてご説明いたします。

第4次計画の展開は、後程ご説明させていただきます。

続きまして、食育に関するアンケート結果から、第3次市川市食育推進計画の達成状況と、市川市の現状等を踏まえた第4次計画へ向けての指標項目、目標値の方向性についてご説明いたします。

今回の評価にあたり、6月に2つのアンケートを実施いたしました。アンケートの集計速報を参考資料2、参考資料3としてお配りしております。

参考資料2はeモニターアンケート調査の結果となります。eモニターアンケートは、1300前後の回答が見込める調査となっておりますが、20代の回答数が少なくなっております。

参考資料3はLoGoフォームによるWebアンケートの結果となります。計画策定初年度の平成30年には、無作為抽出の郵送アンケートを行いました。今年度はLoGoフォームによるWebアンケートを実施いたしました。20～30代の若い世代の評価につなげられるよう、市内の大学やSNSでアンケート実施の周知を促し、特定の項目に絞り、調査いたしました。

20代から30代の若い世代の評価につなげられるよう、市内の大学やSNSでアンケートの周知を促し、特定の項目に絞り、調査いたしました。

各調査の結果を確認しながら進めさせていただきたいところではございますが、達成状況、方向性を議題1としてまとめましたので、こちらをご覧ください。

議題1 第3次市川市食育推進計画の達成状況と第4次計画へ向けての方向性となります。

第1、第3に、食育、市川市食育推進計画の作成状況、第4次計画へ向けての方向性となります。

左側から3次計画の指標項目、対象、3次計画の目標値、策定時の状況、現状値、達成達成状況を示しております。

計画策定時等の数値は、大半が、eモニターアンケートの結果を、評価指標としておりますが、先ほど申し上げました通り、eモニターアンケートは、20代の回答数が少ないため他の評価指標を使用しているものもございます。

左下に※でどの調査を評価指標としたか、記載いたしましたのでご確認ください。

達成状況につきましては、中央の下、欄外にお示ししました◎を現状値が目標を達成している指標、○が目標値へ向け改善している指標、△が変化していない指標、×が改善しなかった指標と

しております。○△×につきましては、策定時と現状値を比較して変化が10%未満だったものは△、それ以上・以下を○×といたしました。

◎の、現状値が目標を達成しておりますのは2項目となります。6の「学校給食における地場産物を使用する学校の割合」は3次計画の目標値は100%の維持で、令和4年の現状値は、100%を維持しております。

13 「塩分のとりすぎに気をつけている市民の割合」につきまして、3次計画の目標値は70%以上としており、3次計画策定時は62.2%でしたが、令和4年の現状値は75.9%と、目標値を大きく上回り、達成となっております。

続いて、○の 現状値が目標に向かって改善している指標は3項目となっております。

5の生活習慣病予防や健康づくりのために食生活や運動に気をつけ、適正体重の維持を実践している市民の割合ですが、こちらは中間評価時より評価方法を変更 と記載しております。3次 計画策定時は、市川市基礎調査のBMIを目標値に設定いたしました。10年に1度の調査で評価ができず、中間評価で評価方法を変更いたしました。

目標値75%に対し、30～50代男性では、計画策定時が50%、現状値は64.2%、20～30代女性で計画策定時が49.6%、現状値は58.6%と、どちらの世代も目標を達成はしていませんが、計画策定時より改善しております。

11の食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合については、80%以上の目標値に対し、令和4年の現状値は79.5%と、ほぼ目標を達成いたしました。

続いて、△で示してあります、策定時と比較して、現状値が変化していない指標項目は9項目ございます。

1 ほぼ毎日、1日3食食べる人の割合について、策定時は81.7%であり、令和4年の現状値は78.7%と低下しております。

2 朝食を欠食する市民の割合についてです。

20代と30代男性の若い世代の、「朝食をほとんど食べない」と回答した割合の目標値は15%以下としております。計画策定時は市川市基礎調査を評価の数値としているため、令和4年の現状値との単純比較はできかねますが、20歳代男女はLoGoフォームによるWebアンケート調査で、それぞれ、14.9%、28.6%となっており、30代男性はeモニターアンケートの調査で評価し、10.7%となっております。

今回、LoGoフォームアンケートの20歳代は、ほとんどが学生の回答でありました。

また、30代男性につきましては、回答数が少なかつたためeモニターアンケートの他、こちらには記載していませんが、LoGoフォームアンケート、第2次市川市健康増進計画の中間評価の調査も参考にしております。現状値が各調査により大きく差があり、達成状況を 変化していない△ の評価にいたしました。

その他、変化していないと評価した指標項目をまとめてご報告いたします。

4 1日2食以上野菜を食べる人の割合については、計画策定時は64.5%→令和4年は59.9%

7 食育に関心のある市民の割合については、計画策定時は85.1%→令和4年は82.9%

8 直近1年以内に農林漁業体験に参加したことがある市民の割合の農業について、計画策定時は37.3%で令和4年は38%

10 「朝食または夕食を家族や知人等と一緒に食べる「共食」の回数について目標は週11回以上となっておりますが、週10回以上の割合が計画策定時は64.3%で令和4年は59.8%

12 地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている市民の割合で、知っていると回答した方は計画策定時では60.9%→令和4年は65.6%、伝えていると回答した方は計画策定時45.9%→令和4年は43%となりました。

いずれの項目も策定時より数値が変化していない、△と評価いたしました。

続いて、現状値が改善しなかった指標についてです。

改善しなかった指標は4項目ございました。

2 朝食を欠食する人の割合の小中学生について、市川市児童生徒のライフスタイル実態調査で週3日以上欠食する割合を調査したのですが、策定時、小学生は3.6%、中学生は7.6%で、令和4年、小学生は4.2% 中学生は9.3%と低下しております。

3 主食・主菜・副菜をそろえた食事を1日2回以上ほとんど食べている市民の割合は全体で計画策定時67%→令和4年は61.7%でした。20~30代は計画策定時で49.5%→令和4年は38.6%、40~50代男性は計画策定時に60%で令和4年は51.9%といずれも計画策定時より、低下しております。

8 直近1年以内に農林漁業体験に参加したことがある市民の割合の漁業について、計画策定時は7.7%→令和4年は5%と低下しております。

以上が全ての指標項目の達成状況となります。

こちらに記載しました3次計画の達成状況、参考資料1の市川市の現状、参考資料4の国・県の4次計画の指標項目・目標値、それぞれの資料の内容を踏まえ、第4次計画へ向けた指標項目(案)をご説明いたします。

議題1の資料の中央から右側に方向性、4次計画の指標項目案、目標値案、国・県の目標値を示しております。

中央にあります方向性に「継続」と示しました指標項目案につきましては、基本的に4次計画へ継続して進めていきたいと考えております。

指標項目の2、3、4、5、7、9、11は第4次計画へ継続とし、目標値につきましては、市川市の現状を踏まえ、設定してまいります。

続きまして、変更を検討している項目です。

6 学校給食における地場産物を使用する学校の割合については、100%維持を達成しておりますので、国・県の指標項目を参考に、現状では「栄養教諭等による地場産物に係る食に関する指導の平均取組回数」や、学校給食における地場産物を使用する割合」についての内容に変更していく予定としております。

8 直近一年以内に農林漁業体験に参加したことがある市民の割合についてです。

新型コロナウイルス感染症の影響により、現在、体験事業等が中止されております。各アンケートの自由記載には、農林漁業や、地産地消に関する内容のご意見が多く、市民の関心度は高いため、市川市の特性を活かしつつ、新たな日常に対応した取組を考慮し、検討してまいりたいと思っております。

11 地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている市民の割合についてですが、市川市では伝統的な料理の代表的なものがなく、千葉県でも太巻き寿司、なめろう、さんが焼き、落花生味噌等となります。参考資料1の市川市の現状、下のグラフに単独世帯を示しておりますが、令和2年の国勢調査では平成27年度と比較して、単独世帯が4.6%増加し45.2%となっております。単独世帯や転入が多い市川市において、地元の郷土料理を継承し伝えていくことは難しいのではないかとという意見も多くございます。しかし、和食の文化や行事食等、家庭で伝えていくことの大切さ、また各アンケートの自由記載でも伝統郷土料理に対する意見も多数あり、市民の関心度は高いものとみられます。

4次計画の指標項目の欄には、3次計画の指標を少し柔らかく表現し、「日本の和食文化や地元の伝統料理、家庭で受けつがれてきた料理や作法を継承し伝えている市民の割合」と示しております。表現等も含め、検討を進めてまいります。

13 塩分のとりすぎに気をつけている市民の割合についてです。70%以上の目標を達成しては

りますが、参考資料1 市川市の現状の裏面、市民の健康状態でお示ししておりますように、令和元年の千葉県特定健診・特定保健指導のデータ結果より、千葉県と比較して、高血圧該当者、高血圧予備軍ともに高いという結果が出ております。高血圧は塩分のみが原因ということはありませんが、参考資料4の国、千葉県の指標項目でも塩分についてはより強化した指標項目となっておりますので、市川市といたしましても、塩分の項目につきましては、終了ではなく、新たな指標項目、もしくは、特に成績の悪い30～50代の働く世代の男性の数値を上げるなど、指標項目・目標値の変更を検討してまいります。

続いて、第3次計画をもって「終了」を検討している項目です。

1 ほぼ毎日、1日3食食べる人の割合についてです。

「1日3食」ということが、2の朝食の推進、また、アンケートの選択肢に1日3回と示してあります3バランスの良い食事の回数、4野菜料理を食べる回数など、他の項目と重なる部分があるということ、国や県でも指標項目には入っていないことに加え、今回の各アンケートの自由記載において、1日3食食べることへの疑問のご意見が多数見られました。この食育関係機関連絡会においても、代表者の皆さまから、多様性に配慮してもいいのではないかとというご意見をいただいたこともございます。

栄養士としましては、お子さんは1日3食食べて、成長に必要な栄養量がとれること、高齢者の方についても、低栄養予防のために1日3食食べることの重要性は、重々承知をしており、啓発をやめるということはございませんが、対象を全体とする指標項目から削除する方向で検討を進めております。

10 朝食又は夕食を家族や知人等と一緒に食べる「共食」の回数につきましても、新型コロナウイルス感染症の影響で、地域での共食の推進が難しくなっている現状がございます。また、市川市は先程お示しいたしましたように、45.2%が単独世帯であり、共食をしたいと思っても、物理的に難しい現状であること。家庭での共食に関しましても、一人親世帯や、共働きの世帯が多いこと、また中高生になると部活、塾で忙しく、家族で共に食卓を囲むということが難しい時代となっております。

共食につきましても、幼少期に家族で食卓を囲むことで、絆を深めるだけではなく、食事のマナーや食文化など、食に関する知識が身についたり、偏食を予防できるなど、とても大切なことですので、共食の啓発は、続けてまいります。指標項目としては、削除する方向で検討しております。

最後に新規に設定を検討している指標項目となります。

14 食品ロスの削減のために何らかの取り組みをしている市民の割合についてです。

市川市では昨年度より生活環境整備課が食育関係課に加わり、「環境」という観点からも食育を進めております。今回のアンケートでは、「食品ロス削減のために取り組んでいることはありますか」という質問に対し、eモニターアンケートもLoGoフォームアンケートも98%の市民が取り組んでいるとの回答でした。この回答結果を踏まえ、第4次計画の指標項目、目標値を検討してまいります。

以上、第3次市川市食育推進計画の達成状況と第4次計画へ向けての方向性について、ご説明させていただきました。

課長：ただいまの説明、今回評価と報告ということで、何かご意見等ございませんでしょうか。

染谷代表：生産者の染谷です。

今回参考資料1、大変わかりやすく、数値がはっきりしているので、説得力がすごくあると思います。

共食について、以前からちょっと疑問に思っていたところがあったので、アンケートで共食とい

うと、単身世帯の方はどう答えたらいいのかわからなかったわけですね。それをちゃんとデータを示した上で、アンケートについても考えていただいたことはすごく、いいことだと思います。

あと、塩分を減らして、健康で長生きするのは食育の最終的な目標になると思うんですけど、そのデータですね高血圧の人がどのくらい糖尿病の人がどのくらいっていうデータが、初めて示されたので数値目標ができたわけです。

今までアンケートをとっても、数値じゃなかったです。アンケートの数値は出てますけれども、答える時の数値っていうのがはっきりしなかったわけですね。

それは今回ははっきり示されたことは、これをだんだん数字を少なくいけるように、食育計画が進んでいくんだろうということがはっきり示されたということで、素晴らしいことだと私は思います。

ありがとうございました。

健康支援課長：ありがとうございます。

他に何かご意見ございましたら挙手お願いいたします。よろしいでしょうか。

健康支援課長：次に第4次市川市食育推進計画 施策の展開につきまして事務局よりご説明申し上げます。

事務局：次に第4次市川市食育推進計画の施策の展開について、現段階の素案をご説明させていただきます。議題2の資料は食育計画冊子23ページ、29、30ページを印刷したものです。資料6は国と県の第4次計画になりますので、併せてご覧ください。

市川市では、平成17年に施行された食育基本法第18条第1項に基づく市町村食育推進計画として、平成20年に第1次市川市食育推進計画、その5年後、平成25年に第2次、現第3次計画は平成30年度から令和4年度までの5カ年を計画期間としています。

第3次計画では、「健康で豊かな食生活を営むまち市川市」を基本理念とし、「生涯を通じた健康な食生活の実践による健康寿命の延伸」の目標を達成するべく3つの施策を柱に事業を実施してまいりました。第4次計画では、第3次計画の基本施策であった「食育の実践者の環を広げよう～つなぐ・広がる・いちかわの食育」をスローガンとして継承し、「健康な体と豊かな心をつくる食育の推進」「食文化継承や食の流通・環境を意識した食育の推進」「関係課、関連機関及び団体等の様々な関係者と連携を強化した食を支える環境づくり」を目指して次期計画を策定します。基本理念、基本目標は、社会情勢の変化に応じて変更するか検討しております。

施策の展開、具体的な取り組み内容については、市民による食育アンケート結果から見えた課題や、代表者の皆様に会議でいただいた意見から追加、見直しを考えている項目についてお伝えします。

健康な体と豊かな心をつくる食育の推進では、ライフステージに応じた健康教育や依頼事業、また保育園、学校等で給食を通じて健全な食生活の実践に向けた啓発を実施してまいりました。しかし、食育アンケートでも成績の悪い、栄養バランス、野菜摂取量の増加や適塩の啓発を全世代に向けて継続します。次世代を育む食育の推進として、若い女性のやせが問題となっています。特に、妊娠前の女性のやせは、早産や低出生体重児の出産リスクとなり、また小さく産まれた赤ちゃんは将来、生活習慣病の発症リスクが高くなるといった報告もあります。また、若いときのやせがそのまま高齢者になるとフレイルの可能性も出てきますので、啓発を行っていきたく考えております。高齢者については、第3次計画では多様な暮らしに対応した食育の推進のなかで展開しておりました。フレイル、低栄養について、自治体等からの依頼事業や食生活改善推進員と共に行っているおとなの食育講習会のテーマとして取り上げたり、民生委員地区協議会にて講話を行いました。市川市の高齢化率は千葉県内で低く、浦安市に次いで2番目に若い市ですが、早期からフレイル予防の啓発をしていくことは有効なことと考えます。

先ほど指標項目の案にも出てまいりました、食事を共に楽しむ「共食」については、家庭及び保育園、学校等において保護者に向けて、朝食を含めた規則正しい生活習慣の形成と、食事のマナーや食文化等の食に関する知識の継承、コミュニケーションの場として、家族で一緒に食べることの大切さを伝えていきます。高齢者においても、地域の中でのつながり、また誰かと食べることで低栄養の予防にもなるため、新しい生活様式に対応しつつ取り組んでまいります。国際的な食文化に対する事業展開としては、市では多文化共生事業として異文化に対する理解促進を行っています。外国の方が多いう市川らしい取組を第4次計画でも考えています。貧困等の状況にある子どもに対する取組としては、県、国の計画に入っていますが、他課の事業となりますので、計画にどのように反映するかは検討します。食の安心、安全に関する情報提供は、第3次計画では減農薬栽培の推進と放射能による残留検査による事業が中心でしたが、放射性物質については安全性が確認されたため事業廃止となりました。しかし、アンケートの自由記載をみると、市民の方の安心、安全への意識がとても高いことが分かりますので食品表示法に関することや、また賞味期限、消費期限の正しい知識は食品ロス削減にも繋がりますので関係課と連携して情報提供してまいります。

以上、素案の段階のため、これから事業担当課と調整を図りつつ、代表者の皆様からご意見をいただきながら策定してまいります。

健康支援課長：ただいまご説明させていただきました推進計画の施策の展開の素案でございます。お手元の資料にありますように、わかりやすい体系図に今回からしようということで作り込んでいただいております。これから皆様からご意見頂戴できれば反映させていきたいと思いますが、この場でご意見ありましたら挙手していただければと思います。

事務局：貴重なご意見ご発言ありがとうございました。次回の連絡会のご案内をさせていただきます。第2回の市川市食育推進関係機関連絡会は令和4年11月17日（木）、15：00～17：00に計画をしております。会場は保健センター4階大会議室で、予定しており、メールまた書面で近くなりましたらご案内いたします。また、今回コロナの感染が拡大し、集合型で行えるかどうか検討いたしました。次回も、状況に合わせて実施はしていく方向で企画しております。またご連絡させていただきます。

冒頭にお伝えいたしました通り、本日の会議録の公開にあたり代表者の皆様に発言部分の確認をお願いいたします。メールでご連絡させていただきますのでどうぞよろしくお願いいたします。

健康支援課長：以上を持ちまして第1回の連絡会を終了させていただきます。長時間に渡りどうもありがとうございました。

【午後4時50分閉会】

以上